



## 季節を知ったら 暮らしが楽しくなった

〜第一四〇号〜

寒露

一〇月八日



## 晩酌屋久兵衛

秋の夜長は、日本酒が最もよく合う季節なのかもしれません。ゆっくりと盃を傾げるひとときは、静かな夜に限りません。そしてお気に入りの酒器があれば、なおのことうれしいものです。

おはらい町通りの造り酒屋「伊勢萬」を入れて左手に酒器の専門店「晩酌屋久兵衛」があります。土蔵造りで、三坪ほどのこぢんまりとした店ですが、書齋にいろいろな落ち着いた気持ちになります。壁際の飾り棚には、本ではなくて、全国から集められたぐい呑みがひとつずつ並べられています。その数三〇〇点といえますから、書齋というより、美術館といった方がしっくりとくるかもしれません。県内だけでなく、北海道から沖縄まで全国から集められた酒器は、陶器、ガラス、漆器などさまざま。この仕入れを担当しているのは、他抜きだんらん亭のおかみでもある山本直美さんです。

あくまで日本酒の酒器にこだわりの造り酒屋の「おかげさま」を冷でたっぷり呑んでほしいと、大ぶりのものが多いと言います。

「伊勢はあくまで木綿の世界だと思えますので、京焼きなどは置きません。シンプルなもの、ハレとケを作り出したい。赤絵や金彩などでハレの日のものを、日々のケは、手入れ次第で味のでてくる土ものなどを選んでいきます」

ぐい呑みのほかに、徳利や片口、酒肴用の三寸の皿も揃っています。清水卯一や鈴木蔵など人間国宝の方の作品は、ガラスケースに、そして手軽なもの、ザルに入っている手軽さ。この幅の広さも、まるで本物の土蔵に迷いこんだような気持ちになる、この店の魅力です。

文 千種清美